

IZUYOSHI





## ファッションアパレル各社の信頼に 確かなニーズ察知力でお応えできるバイプレイヤーとして。

ファッションの世界は、秒進分歩の世界です。国内外を問わないボーダレスなビジネスフィールドで、他産業に比べ何倍ものスピードで物事が動いていきます。その世界の主役がファッションアパレル業界のメーカー各社とすれば、アパレルパーツ（服飾資材）を扱う専門商社の私たちはその主役に併走しながらサポートするバイプレイヤーといえるかもしれません。

全力で走るその主役たちは、状況に応じて頻りに進路を変えます。併走する私たちに求められるのは、主役の動きを追うのではなく、主役が見ているのと同じ未来を追いながら主役と同時に進路を変えていくこと。私たちはこのスキルを「ニーズ察知力」と称し、常にそのアンテナ感度を磨き続けています。主役から絶対の信頼を寄せられるバイプレイヤーとして。



## ルーツは、繊維の街・広島県東部、福山市新市町。 培ってきたノウハウは豊富にして確かです。

広島県東部、福山市新市町は古くより繊維産業の盛んな地域でした。戦時下において軍服製造を担っていたことから、戦後から現在に続く歴史の流れの中で繊維産業、特にユニフォーム分野に強い地域産業として発展を遂げたのです。私たち伊豆義がこの地に創業したのが1934年、以来約80年にわたり、アパレルパーツの専門商社として着実に歩んできました。

そして、現在。ボタン、ファスナーをはじめとする、ありとあらゆるアパレルパーツの製品ラインナップを武器に、ファッションアパレル各社のニーズに的を射た提案ができる体制をつくりあげています。また、国内外からの仕入体制や商品品質の維持管理、お客様ごとの要望に細やかに迅速に対応できる検品・荷組・出荷体制など、独自のノウハウで「伊豆義ならではの！」と評価を受ける強固なバックヤード機能も大きな特徴です。

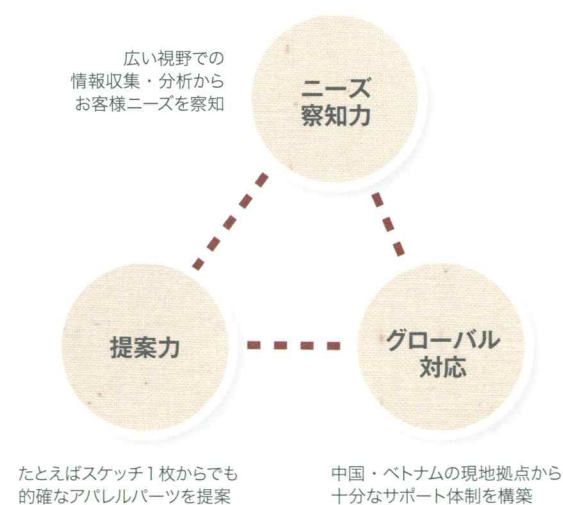
近年、営業面においては中四国・関西・九州エリアはもちろん、東京エリアへの営業シフトを、また、海外展開においては中国2拠点（上海・青島）、ベトナム1拠点（ハノイ）でお客様の生産活動を現地をサポートし、より付加価値の高い事業活動が行える体制づくりを積極的に進めています。



古き時代の面影を残す  
新市町の町並み。

## 3つの視点から、 高い付加価値をご提供します。

ファッションアパレル業界各社に提供すべき伊豆義の付加価値について、私たちは3つの視点から捉えています。1つ目は、広い視野で情報を収集・分析し、お客様に先んじるほどの確かな「ニーズ察知力」を持つこと。2つ目は、お客様の信頼と期待に打てば響くように応えられる「提案力」を持つこと。そして、3つ目は日本国内のみならず海外においてもしっかりサポートできる「グローバル対応」の体制を持つこと。これらをバランス良く組み合わせながら、伊豆義はお客様の頼りになる存在でありたいと願っています。



# Sales DIV.

□ 営業体制

**お客様の製品づくりを担う一員として。  
その強い責任感が営業の本質です。**

たとえば一着の製品づくりに必要なアパレルパーツは20~30種類にも上ります。ボタン、ファスナー、裏地・芯地、各種リボン…エトセトラ。それら一つひとつの提案から、製品づくりのための仕様分析、仕入を経て縫製工場への納入まで。営業スタッフはそうした一連の業務のすべてをマネジメントしていきます。こうした仕事において重要なのは、お客様の製品づくりを担う一員としての責任を営業スタッフが十分に認識することに他なりません。新製品の製造がスタートするその日、たとえ一種類でも欠品があればお客様は大きなロスを被ることになるのですから。

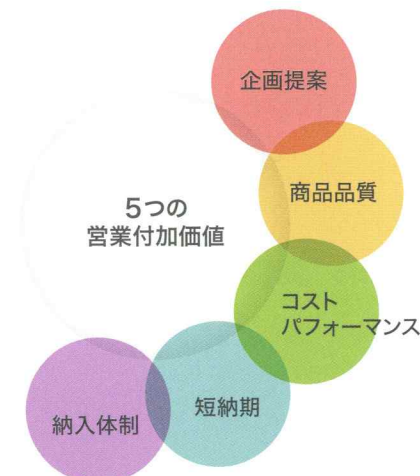


**伊豆義ならではの目に見える付加価値で  
さまざまなお客様をサポートします。**

お客様がマーケットに送り出す製品づくりをサポートし、どれだけ高い付加価値を提供できるか。それが伊豆義の営業に課せられた使命です。営業スタッフは、その付加価値の定義を次の内容で捉えています。すなわち「企画提案」「商品品質」「コストパフォーマンス」「短納期」「納入体制」の5項目です。お客様の業態や製品分野、さらに生産体制などに応じて、それぞれ伊豆義ならではのノウハウとスキルでお客様をサポートさせていただきます。

## 【国内外を網羅する営業網】

たとえば国内で製品企画の概要をまとめ、アパレルパーツの詳細決定をお客様の海外生産拠点で行うといった場合、伊豆義では本社・東京の各拠点営業スタッフが国内のサポートを行い、概要決定後、中国(上海・青島)、ベトナム(ハノイ)で現地拠点の営業スタッフが連携してサポートにあたる、国内外を網羅する営業網を構築しています。



## Business Flow 業務フロー



### ■ ヒアリング



製品づくりに対するお客様のご要望をしっかりと聞き、理解することが、すべての出発点です。

### ■ ご提案



製品コンセプトに沿ったアパレルパーツのご提案は、お客様の期待を上回るもの！それが伊豆義流。

### ■ サンプル製作・ご提案



必要に応じてサンプル製作を行い、形状、機能、素材、質感の確認などを進めていきます。

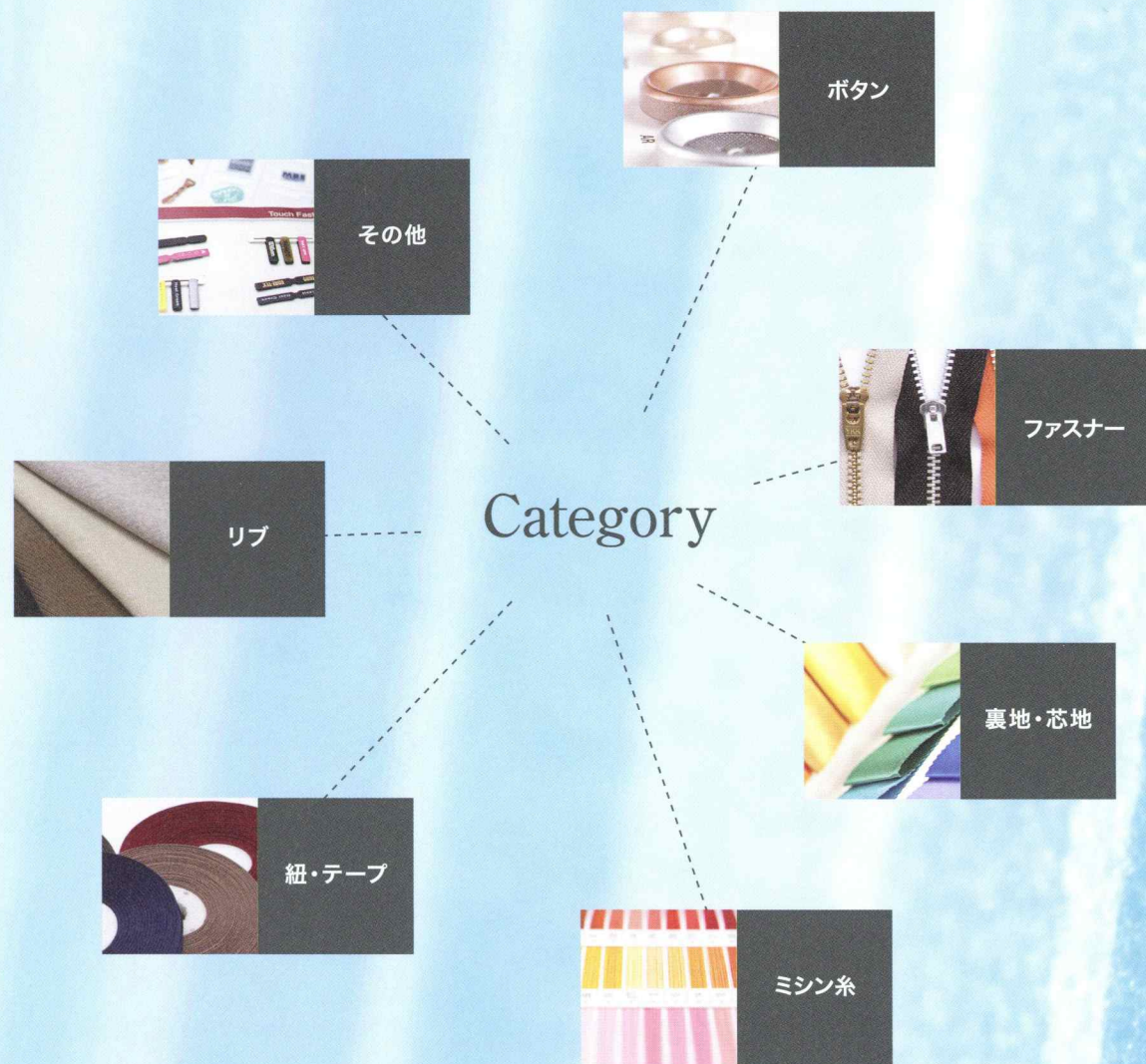
### ■ 仕様分析



製品化に際して、生産計画に合わせて必要なアパレルパーツの種類・個数などの仕様分析を行います。

**アパレルパーツにかかる  
お客様の負担を極力小さく。**

営業スタッフの業務は多岐にわたり、また、一方向の流れで完結するものではありません。それをあえて単純化し、平均化したのが上図の業務フローです。私たちが重視しているのは、その各業務におけるベストな仕事と、業務の連携をシームレスにつなぎながら、高い品質の商品をロスなく効率的にお届けしていくことです。結果的に、アパレルパーツの調達にかかるお客様の負担を極力小さくさせていただくことが、伊豆義の存在価値になります。営業スタッフはトータルな業務マネジメントの役割を担っています。



# Product

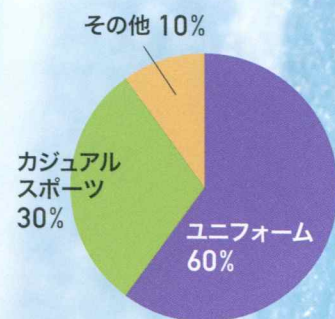
## 商品展開

### 7カテゴリー、1万点以上もの商品でお客様の製品づくりをサポート。

伊豆義が扱うアパレルパーツは大別して、ボタン、ファスナー、裏地・芯地、ミシン糸、紐・テープ、リブ、その他の計7カテゴリーの商品群です。商品数にすればざっと1万点以上にも上ります。国内外の仕入先は、いずれも生産体制や品質管理、納期管理などの面で伊豆義が求めるレベルの高いマネジメントに応えられる、信頼のおけるパートナー企業です。この確かな商品力をバックボーンに、私たち伊豆義はお客様の製品づくりを強力にサポートしていきます。

#### 製品分野別構成

ユニフォーム分野に強いのが伊豆義の特徴ですが、現在、カジュアル、スポーツ、さらにレディス、キッズなどの分野への取り組みも積極的に行っています。



### 伊豆義の商品は、「高品質」の代名詞ともいえるもの。品質管理は徹底的に行います。

伊豆義における商品力とは、お客様に安心して採用いただける「高品質」の代名詞。その観点から、伊豆義では仕入先と一丸となって商品の品質管理を行っています。特に中国では、現地拠点(上海・青島)のスタッフによる技術指導・品質管理体制を敷き、品質の安定化に徹底的に取り組んでいます。中国製とはいえコストパフォーマンスだけを売りにはしない。それが伊豆義の考え方です。



検反機



品質チェック



検針機

#### 自社商品

##### デオ・グラフト



### 消臭力に優れた自社商品を開発、販売へ。

ファッションアパレルメーカーであるお客様と、アパレルパーツメーカーである仕入先の間立ち、いわばニーズとシーズをつなげていく専門商社の伊豆義ですが、その圧倒的な情報力を武器に、最近では一部パーツメーカーとしての顔も持ち始めています。その第一弾となる自社開発商品が「デオ・グラフト」です。

このデオ・グラフトは、お客様の消臭機能に対するニーズに非常に高い性能で応えた「消臭テープ」で、発売は2010年秋。基礎技術は仕入先の一社が持つ放射性グラフト重合という繊維の分子レベルの結合に関する技術で、これをベースに伊豆義自身の研究開発で商品化に成功した商品です。発売後、お客様の評価も高く、現在も順調に売上を伸ばしています。また、「デオ・グラフト」に続く第二弾、第三弾の新商品の開発も現在進めており、近い将来デビューする予定です。



営業三課サブ・リーダー  
小野 誠  
デオ・グラフト開発プロジェクトをまとめた実質的なリーダー。

デオ・グラフトはポロシャツの襟・袖モール・脇下、帽子の内側部分、パンツのポーシック部分などに使用され、汗の臭い(アンモニア・酢酸・イソ吉草酸)に高い消臭効果を発揮します。

#### PROJECT

### 社内プロジェクトの成果、続々。

伊豆義では営業スタッフを中心とした社内プロジェクトを立ち上げています。個々のスタッフの持つ知恵と情報を共有することで互いのスキルアップに役立てるほか、自社商品の開発や業務改善などに生かしていく取り組みです。その成果は有形無形の付加価値となってお客様へフィードバックされていくものです。



社内プロジェクトはテーマごとに複数のチームがあり、スタッフはさまざまな部署からこれに参加します。プロジェクトの進行に従って適宜必要なスキルを持つスタッフが新たに加わるなど、柔軟な体制でマネジメントされています。

# Global Support

海外サポート体制

## お客様の海外展開を 現地で確実にフォローします。

チャイナ・プラス1という言葉が示すように、中国主体であったファッションアパレル業界の海外展開は、中国拠点は維持しつつアジア・ASEAN諸国に第二の拠点を設ける動きが加速しています。伊豆義でもお客様のそうした動向をフォローし、中国2拠点（上海・青島）に加え、2011年にはベトナム（ハノイ）に拠点を開設しました。いずれも自社資本による現地法人で、伊豆義の強みを最大限発揮して現地でフェイス・トゥ・フェイスでお客様をサポートできる体制としています。



伊豆義の商品供給はアジア・ASEANの多くの国々に広がっています。



上海伊豆義青島分公司



上海伊豆義・中国本社、平湖分公司



伊豆義ベトナム



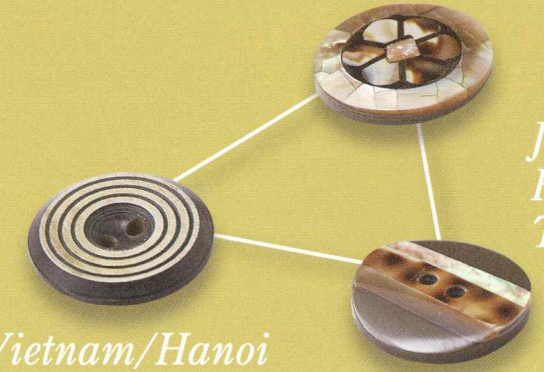
伊豆義 東京



伊豆義 本社(広島)

広島・東京の国内2拠点と、中国2拠点（上海・青島）、そしてベトナム（ハノイ）1拠点を有機的に結び、海外展開するお客様を万全の体制でサポートします。

China/Shanghai, Qingdao



Japan/  
Hiroshima  
Tokyo

Vietnam/Hanoi

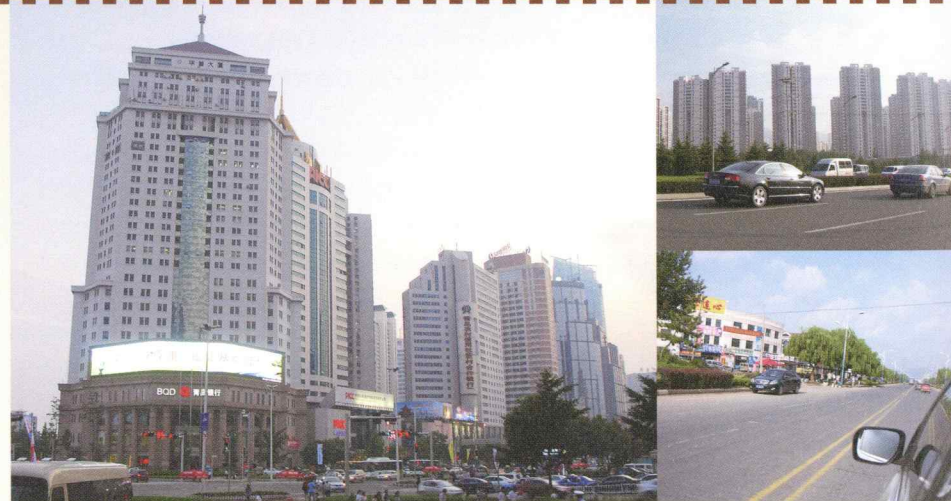
日本および中国、そして、ベトナムでの伊豆義の拠点展開は、それぞれの役割を担い、密接に連携した事業展開を行っています。まず日本では本社機能および配送機能、さらに中四国・関西・九州エリアを対象とした営業機能を持つ広島本社と、大手のお客様を中心とした巨大マーケットを対象に営業活動を行う東京営業所。次いで中国においては、同国最大の商業都市である上海、さらに広大な中国の北部エリアに向けて青島にそれぞれ拠点展開。最後にASEANへの業界各社のシフトに沿った展開としてベトナム・ハノイに新規拠点を設置。この海外3拠点は基本的に本社および東京営業所のお客様の海外生産に対して現地フォローするのが目的ですが、ニーズに応じて独自に営業活動も展開し、現地日系企業へのダイレクトなサポートも行っています。

## REPORT

# CHINA BUSINESS

アジアに吹く熱い風

伊豆義、中国進出10数年を経て、  
お客様の信頼を裏切らない  
「高い品質の商品」供給体制を実現。



今や世界第二位の経済大国となった中国は、これまでファッションアパレル産業の発展を文字通り「世界の工場」として支えてきました。1980年代から90年代後半にかけて、他分野の製造業と同様、数多くのメーカーが縫製工場を中国に展開するのと呼応し、伊豆義も1996年、そのお客様をフォローすべく国際都市・上海に拠点を立ち上げました。それが独立資本による現地子会社・上海伊豆義です。

上海伊豆義は、上海市中心部に中国本社を置き、お客様企業の立地が多い郊外の平湖市に事務所機能・配送機能を持つ平湖分公司を設置、さらには中国北部エリアのお客様をサポートするために、2009年には青島市にも分公司を設置。この平湖分公司と青島分公司の2拠点で、主に日系企業のサポートを行っています。

上海伊豆義の業務については、伊豆義拠点（広島・東京）が日本のお客様に対して仕様分析まで行い、それをベースに上海伊豆義が商品調達を行い、現地の縫製工場に納品する形態です。ただ最近では日本で概要だけをまとめ、商品の提案段階から上海伊豆義で行う形態の仕事も徐々に増えつつあります。

上海伊豆義の特徴を簡単にいえば、お客様の信頼を裏切らない「高い品質の商品」供給体制にあります。中国への拠点進出以来10数年をかけて培ってきた現地仕入先との強いパートナーシップのもと、十分に満足いただける体制づくりを構築できていると自負しています。中国商品に関してよくいわれる「安かろう悪かろう」の言葉は、伊豆義の考え方には当てはまりません。その背景にあるのは、伊豆義が一社一社開拓してきた仕入先が、学ぶ意欲、成長意欲のある経営者を擁し、また、生産や品質管理、納期管理などの体制づくりをともに行ってきた信頼のおける企業であるという点です。また、さらに万全を期すため、入出荷時には社内でも厳重な検品体制を敷いています。

上海伊豆義は現在、青島分公司も含めて約60名の陣容となっています。発展する中国経済と歩調を合わせるように成長を遂げてきましたが、今後はこの基盤を生かし、新規のお客様への独自営業をはじめとする積極的な展開を図るなど、さらに業容を拡大していく計画です。



平湖分公司では現地若手スタッフも順調に成長を遂げており、伊豆義のアイデンティティで仕事をしています。



青島分公司でも営業基盤拡大のための施策を次々実行中。



上海伊豆義平湖分公司の事務所内。整理整頓が徹底されています。



中国でも日本同様にお客様への企画提案を実施しています。



中国各地へ、アジア諸国へ、日本へ、商品は次々に出荷されていきます。

# Division

□ 拠点網

## お客様の動きあるところに、伊豆義あり。

広島県福山市新市町で創業した私たち伊豆義は、当地で本社営業部、配送センターを中心とする本社機能の基盤強化を行う一方、ファッションアパレル各社が集中する首都圏に東京営業所を設置、また、お客様の海外生産活動を直近でサポートするため中国（上海・青島）、ベトナム（ハノイ）にそれぞれ自社拠点を設置しています。

「お客様の動きあるところに、伊豆義あり」。お客様の製品づくりにとってアパレルパーツが決して欠かせないものであるなら、そして、伊豆義が必要とされるなら、私たちは常にお客様が必要とするその場所にいたいと考えています。

## HIROSHIMA 広島

### 繊維の街、広島県福山市で鍛えられたノウハウを全社へ。

広島県東部に位置する福山市は全国的に知られる繊維の街です。特にユニフォーム分野は全国でおよそ60%の販売を誇ります。伊豆義はアパレルパーツ専門商社として成長してきましたが、そのノウハウの源流はこの地で鍛えられてきた経験と実績によるものです。

伊豆義本社は、地場福山市を中心に、東は関西一円、西は九州、南は四国までを対象とした本社営業部を持つと同時に、東京営業所および海外拠点を統括する本部機能を併せ持ちます。また、国内・海外からの仕入、商品の検品を行う配送センターを本社敷地内に併設、営業活動と迅速に連携可能な物流体制を構築しています。

さて、福山市は織物・テキスタイル・染め・デニム・縫製などからなる繊維産業の集積地として知られています。伊豆義は本社機能をここに置くことでさらなるノウハウの構築に努め、そして、それを全社へ展開していくことで関東エリア、海外エリアのお客様への付加価値の提供につなげていきたいと考えています。



本社



東倉庫



新設置された本社東倉庫は、3階建ての余裕ある空間で将来のキャパシティを確保。



ソーラーシステム

本社屋上スペース全体を使用してソーラーパネルを設置。必要電力の相当部分を自社で賄っています。

## TOKYO 東京

### 世界に冠たるマーケット・東京で、お客様にとって必要なサポートのすべてを。

伊豆義が関東エリアのお客様をサポートするために東京営業所を設置したのは2000年のことです。以来、伊豆義本社エリアのお客様が関東エリアで行う事業展開のサポートはもちろん、関東エリアに本社・支店を持つファッションアパレル各社・商社など、さまざまなお客様のサポートを行っています。

関東エリア、特に東京は、世界に冠たるマーケットであり、スピード感ある高いレベルの業務が求められます。東京営業所は、本社、海外拠点と密接に連携し、提案、サンプル制作、海外生産対応など、お客様にとって必要なサポートのすべてを迅速かつ的確に行います。



東京営業所が入居するビル。(写真中央)

## SHANGHAI 上海

### 国際都市上海でお客様に高い信頼を。

中国での拠点展開の足がかりとすべく、1996年に独立資本による子会社として設立されたのが、上海伊豆義貿易有限公司です。上海市中心部に中国本社を置き、郊外の平湖市に平湖分公司を設けています。業務の中心は日本のお客様の現地生産工場や生産委託工場を対象とした商品の提案から納入までの一式です。仕入先に対する品質管理や技術指導など、お客様に信頼いただける体制の構築も万全です。



平湖市の静かな環境に開設された上海伊豆義平湖分公司。



十分な倉庫機能も特徴の一つです。

## QINGDAO 青島

### 中国北部のお客様をサポートするために。

中国北部のお客様をサポートするため、上海伊豆義の分公司として、2009年、山東省青島市に設置したのが上海伊豆義青島分公司です。青島への進出にあたっては上海伊豆義のノウハウが最大限活用され、順調に業務をスタートさせることができました。業務内容としては上海拠点と基本的に同様で、現在さらなる事業基盤の充実を目指して社内外の環境整備に取り組んでいます。



上海伊豆義青島分公司の入居ビル。



ビル内に倉庫スペースを確保。

## VIETNAM ベトナム

### ASEAN展開へのジャンピングボード。

チャイナ・プラス1、つまり中国に加えもう1カ国リスクヘッジのための生産拠点を持つという動きがお客様の間で加速しています。そうした潮流の中、2011年に進出したのがベトナム・ハノイ。中国への拠点開設時と同様、独立資本により伊豆義ベトナムを設立し、この地でお客様のサポートを行っています。今後のASEANへの事業拡大のジャンピングボードでもあります。



伊豆義ベトナムの入居ビル。



このオフィスがベトナムでの事業展開の拠点です。

# Delivery

□ 配送体制

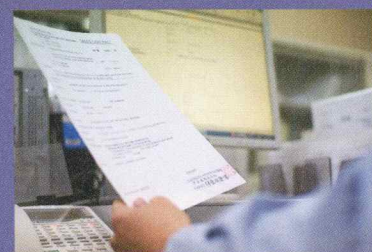
**迅速、正確、生産に対応した入念な荷組等々、  
本社配送センターは、伊豆義の真骨頂。**

本社配送センターにおける、商品仕入から荷組、そして発送までの一連の配送体制の正確さ、迅速さは、アパレルパーツ専門商社・伊豆義の真骨頂といえる部分です。お客様からの受注はタイムラグなく処理され、正確に管理されます。商品は、種類・個数などお客様の要望に応じて荷組され、工場では仕分けなど一切の手間がかからないパッケージ納品を行っています。非常に細かく複雑なこの作業を効率的に実践できるのは、伊豆義の長年培ってきたノウハウそのものです。



**貿易業務にもノウハウあり。  
グローバル展開の必須ノウハウです。**

たとえば日本で仕入れた商品を海外の縫製工場などに送る際の「貿易業務」は、英文による書類作成など非常に煩雑で、かつ高い専門知識が必要になる作業です。この貿易業務は多くの場合外注先に頼ることが多いのですが、伊豆義では社内部署で行える体制としています。グローバル展開を事業の軸として考えると、貿易業務に関するノウハウの構築は避けては通れないものなのです。



**Sales Assistant**  
営業アシスタント

**お客様を専任で担当し、  
営業スタッフと密接に連携を取りながら  
一連のアシスタント業務を行うプロです。**

本社配送センターで伝票を片手に棚の間を行き来し、商品をピックアップして回るスタッフがいます。それが「営業アシスタント」の存在です。それぞれ専任でお客様を担当し、営業スタッフと連携して仕入管理から入荷確認、品揃え、荷組、貿易業務など、一連の業務を行っています。担当するお客様についての情報把握を正確に行っているため、万が一、イレギュラーな事態が起こっても的確な対応が可能。営業スタッフはもちろん、伊豆義を支える陰のプロフェッショナルです。



効率良く商品を集め、正確、迅速にパッキングする専門職です。



営業スタッフの仕事を強力にサポートする存在でもあります。

# Quality Control

□ 品質管理

**徹底的に実践するQC活動の取り組みは、  
しっかりとお客様への仕事品質に。**

お客様へお届けする商品は当然のことながら、社員一人ひとりの仕事内容、スピード、生産性、さらには態度、言葉遣いまで、伊豆義における「品質管理」の考え方は企業経営のベースといってもよいほど重要なものです。“神は細部に宿る”という言葉がありますが、仕事を行うための環境づくりは、備品ひとつの扱いにも注意が払われていなければなりません。伊豆義が実践する品質管理の維持向上の取り組み、いわゆるQC活動は、外部コンサルタントを招いて徹底的に行われます。その成果は、しっかりとお客様への仕事品質に反映されていくのです。



**5S+1のルールを自ら設定し、守ることで、  
常に成長を続ける人と組織、  
活性化された風土を維持。**

伊豆義のQC活動は、5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）をベースに、社内各チームは仕事の内容に準じた具体目標を各項目ごとに設定、さらに+1として基本動作（特にあいさつと指示報告の励行）に関する目標設定を行い、これらのルールに従った実践と振り返りを繰り返して行っています。5S+1の内容は期ごとに成果確認と新しい取り組みが設定されます。チームおよび社員一人ひとりは、この活動によって仕事のやり方を見直し、仕事のレベルアップを実感することができます。伊豆義は、こうした取り組みを通じて、常に成長を続ける人材と組織、活性化された風土を持つ企業でありたいと考えています。



# Top Message

## 伊豆義は常に新しく生まれ変わりながら お客様のニーズに応えられる存在であり続けます。

ファッションアパレルの世界は、どんな産業界にも増して変化の激しい業界です。言い方を換えれば、エネルギーに満ちた活気ある世界でもあります。業界各社が切磋琢磨し、互いにノウハウを磨き、エンドユーザーのニーズに応え続けていることは、大変に素晴らしいことだと思います。

そんな業界に身を置き、私たちは約80年もの時を過ごしてきました。一説に企業の寿命は30年ともいわれますが、その説にならば伊豆義はすでに2周回し、3周回目も間近かということになります。これもひとえに、お客様はもちろん仕入先各位のおかげと心から感謝する次第です。

さて、アパレルパーツに関わる業務は、お客様にとって非常に労力のかかる仕事です。一言でいえば、とにかく“細かくて複雑”な業務です。私たち伊豆義の存在意義は、お客様をそのストレスから解放することに他なりません。伊豆義約80年の歩みは、そのノウハウ蓄積の歴史でもあるのです。

現在、日本経済はグローバル化の波に洗われています。ファッションアパレル業界もアジア・ASEAN諸国を面を捉えたビジネスが今や常識です。伊豆義もそうした時代を背景に、中国、ベトナムに拠点展開し、いち早くお客様を現地でサポートする体制を整えました。時代はやがてグローバルを超えて、ボーダレスな世界になっていきます。私たち伊豆義は、過去の歴史、現在のポジションに安住するのではなく、常に新しく生まれ変わりながら、お客様のニーズにお応えしていかなければならないことを痛感しています。



代表取締役  
伊豆田 康博  
YASUHIRO IZUTA

約20年前、グローバル化などという言葉もない頃から、海外展開の重要性を指摘し、そして、約7年に渡り自ら香港・上海に赴任、現在に連なる海外展開の基盤を整えた。2000年4月代表取締役に就任、現在に至る。

## お客様のために仕事をするのが 自らの喜びになる、そんな人材集団でありたい。

アパレルパーツの専門商社である伊豆義の最大の財産、それは、人材です。ビジネスの第一線で直接お客様に接する営業スタッフはもちろん、本社や各拠点すべての社員がお客様目線でしっかり仕事を行っていくことで、真に価値ある事業運営ができるのです。そうした考えから、伊豆義では人材採用から教育・育成に至るまで、積極的に投資。経営陣が先頭に立って人材採用活動や、個人・チームごとのスキルアップ・コミュニケーション活性化をテーマとした研修など、あらゆる機会を捉えて人づくりを行っています。なかでも個人のモチベーションアップとチームワークによる効率的な仕事の実践については特に重視し、その両者のバランスを組織風土として浸透させるべく多くの時間を注いでいます。仕事の仕組みづくりも重要ですが、その仕組みの中で仕事をする人間こそがもっとも重要。伊豆義は、お客様のために仕事をするのが、自らの喜びになる、そんな人材集団でありたいと考えています。



外部機関に依頼し、体系的・継続的な教育研修を実施しています。



研修で重視しているのは、チームごとの実践的な仕事力の向上です。

# Data

## 会社概要

■ 創業	昭和9年(1934年)
■ 設立	昭和30年4月(1955年)
■ 資本金	4,500万円
■ 代表者	代表取締役社長 伊豆田康博
■ 従業員数	84名
■ 事業内容	アパレルパーツ(服飾資材)の専門商社
■ 事業所(国内)	本社・東京営業所
■ 事業所(海外)	中国(上海・青島)・ベトナム(ハノイ)
■ 主要取引先	YKK、モリト、モリリン、ジーベック、ピックボーン、ポストン商会、エドウィン、伊藤忠商事、三菱商事、カイトック、豊島、チクマ、東洋紡STC、他 ※敬称略
■ 主要取引銀行	広島銀行新市支店、中国銀行新市支店、みずほ銀行福山支店、商工中金福山支店

## 沿革

昭和9年	現社長の祖父伊豆田義男が毛糸・日用品販売を創業
昭和23年	現会社の取扱品目である縫製服飾資材の販売を始める
昭和30年4月	分離独立して「株式会社伊豆義商店」を設立し、現会長伊豆田敏治が取締役社長に就任、備後地区縫製業者数100社に販売拡大、資本金200万円
昭和34年7月	資本金300万円に増資
昭和35年7月	福山営業所を開設し、福山・神辺地区並びに岡山県西部地区に販売地盤を拡大
昭和37年4月	鉄筋コンクリート3階建の新社屋を建築完成し、同時に「伊豆義株式会社」と社名を変更、資本金900万円に増資
昭和39年2月	本社裏に倉庫を建築完成
昭和39年7月	資本金1,200万円に増資
昭和44年1月	福山市沖野上町に福山営業所を新築移転し、福山地区における販売地盤を更に拡大
昭和46年5月	資本金2,000万円に増資
昭和55年4月	資本金3,000万円に増資
昭和55年7月	福山営業所を福山市卸町に新築移転
昭和60年4月	鉄筋コンクリート3階建2,000㎡の新社屋建築完成
昭和60年5月	資本金4,500万円に増資
平成5年3月	社宅新築完成
平成5年5月	福山支店増築
平成6年3月	本社増築
平成6年6月	伊豆義(香港)有限公司設立
平成7年1月	上海伊豆義服装輔料有限公司設立
平成8年1月	上海伊豆義貿易有限公司設立
平成12年4月	伊豆田康博が代表取締役社長に就任
平成12年8月	東京営業所開設
平成13年4月	上海伊豆義貿易有限公司新倉庫新築
平成14年3月	岡山営業所開設
平成17年1月	本社 東倉庫新築
平成20年1月	上海伊豆義貿易有限公司 平湖分公司開設
平成21年5月	上海伊豆義貿易有限公司 青島分公司開設
平成23年12月	IZUYOSHI VIETNAM CO.,LTD 設立
平成27年2月	大阪営業所開設



# Network

## ■ 伊豆義株式会社

【本社】  
広島県福山市新市町新市452  
TEL.(0847)52-3188  
FAX.(0847)51-5005

【東京営業所】  
東京都台東区蔵前4-6-8  
サニープレースビル6F  
TEL.(03)5825-0660  
FAX.(03)5825-0661

【大阪営業所】  
大阪府大阪市中央区平野町1-5-9  
井上ビル4階  
TEL.(06)4708-3940  
FAX.(06)4708-3941

## ■ 上海伊豆義貿易有限公司

【中国本社】  
上海市外高橋保税区荷丹路  
186号4楼B座  
TEL.021-58669987  
FAX.021-58665361

【平湖分公司】  
浙江省平湖市新倉鎮新倉工業区  
広全公路55号  
TEL.0573-85746778  
FAX.0573-85746777

【青島分公司】  
山東省青島市城陽区夏庄街道王家泊子盛文  
服飾研究中心106室  
TEL.0532-89088101  
FAX.0532-89083101

## ■ 伊豆義ベトナム IZUYOSHI VIETNAM CO.,LTD

【Head Office】  
7F, Zodiac Building,  
No.19A Duy Tan Street,  
Dich Vong Hau ward,Cau Giay  
district, Hanoi City, Vietnam  
TEL. +84(4)3795 5981/5982  
FAX. +84(4)3795 5980





伊豆義株式会社

〒729-3103 広島県福山市新市町新市452 TEL.(0847)52-3188 FAX.(0847)51-5005

<http://www.izuyoshi.co.jp/>